

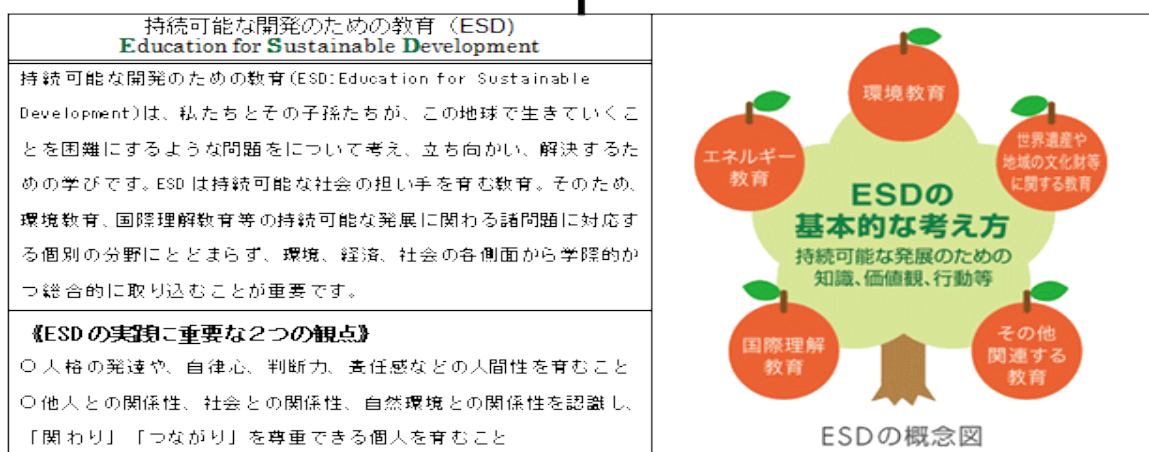
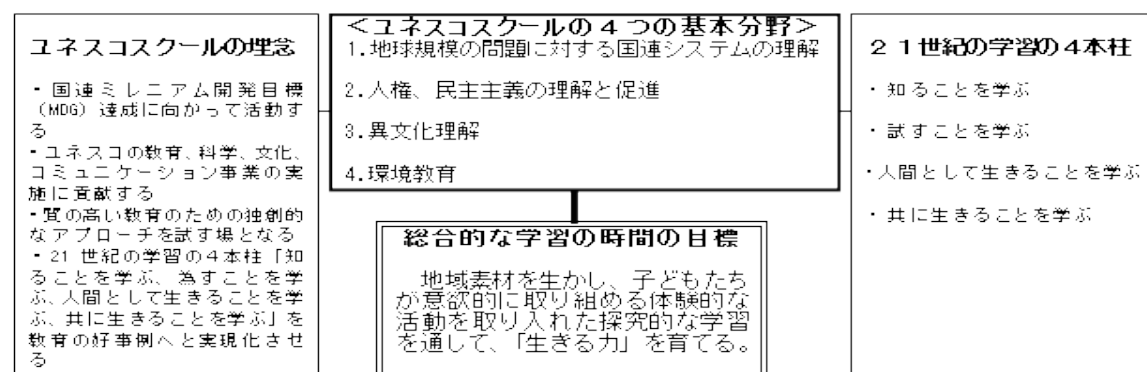
# 石狩市立双葉小学校ユネスコスクールの取組

石狩市立双葉小学校  
校長 加藤 文明  
担当 横山 隆也

## はじめに

本校は住宅街を校区とする学校である。近隣に特別な文化施設や豊かな自然がない平均的な学校である。そのような教育環境にあってもユネスコスクールの理念に基づいた様々な取組が学年や委員会で行われている。この姿からはユネスコスクールの活動の趣旨や意義、内容が浸透してきた様子が窺える。今後は研修を充実させ、実践の質の向上を図りたいと考えている。

## 1. ユネスコスクールとしての取組の全体計画



### <総合的な学習の各学年の内容>

※各学年の総合的な学習の内容にESDの視点を盛り込み、「社会や未来のためにできること」を考え、実践していく。

学 年	3年「食・健康」	4年「地域」	5年「環境」	6年「国際理解」
主 要 学 習 事 項	◎いのちの大切さや安全で健康な生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほが	◎地域についての理解を深め、地域のよさを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほが	◎環境問題についての理解を深め、自分にできることを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほが	◎世界の諸問題や人々について考え、自分の将来や生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほが
学 習 内 容	○食に関わる内容、施設 ○自身の健康、生命の神秘、不思議、素晴らしさ等	○地域の施設や自然 ○地域の伝統や文化を守る人々等	○身近な自然環境とそこに関わっている諸問題 ○環境を守るための活動に取り組んでいる人々等	○海外の国や地域で起きている諸問題や解決のための方策 ○将来への展望等

**<特別活動における取組他>**

【特別活動のねらい】学校生活の充実と向上を図り、自発的自治的な活動を通して自主性・社会性を育成する。

- 書記局の呼びかけによるクリーンプロジェクトによって身近な環境に目を向け、環境を守る態度を育成する。
- ボランティア委員会を中心に行っている書き出しハガキ集め活動の経過、結果をいつでも目につくようにユネスコ掲示板を活用していく。
- ユネスコスクール、ESDについて、教員の共通理解を図るための研修を行う。

**<全校一斉の取組>**  
ユネスコスクール集会(年2回)

①総合的な学習の計画や活動の経過を発表する集会。  
②1年間の活動のまとめやユネスコスクールの一員として「社会や未来のためにできること」を発表する集会。

- ・ユネスコスクールの活動を保護者や地域の方々にも広く理解してもらうため、集会の参観を呼びかける。
- ・ユネスコスクール集会以外にも学年・ブロック単位で活動、実践発表会を積極的に設ける。

## 2. 総合的な学習の時間のねらい

ユネスコスクールの取組の柱の一つが総合的な学習の時間における取組である。

総合的な学習の時間の趣旨を実現するためには、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習をすること、他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすることが重要である。体験活動を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図ることが欠かせない。

本校の総合的な学習では、地域素材を生かした体験的な活動を取り入れ、教科の枠を超えた横断的・総合的な活動となるよう充実を図る。このような学習活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力などをはぐくむとともに、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得にも資するなど教科と一体となって子どもたちの力を伸ばすものである。

本校の総合的な学習の時間の計画に当たっては上記の基本的な考え方に加えてユネスコスクール実践校としてESD「持続可能な開発のための教育」の視点を盛り込んでいる。「食・健康」「暮らし・エネルギー」「環境・防災」「国際理解」などの各学年のテーマにESDの視点を組み込むことで安心して暮らせる未来の実現のために課題を発見する力や解決のための方法を考える力、協同して課題の解決に当たる力や態度を育みたいと考えている。

## 3. 育てたい力

総合的な学習の時間における育てたい力としては以下の内容を設定している。世の中に感心を持ち、自らの課題を探究的に学ぶ力。課題解決に見通しをもって取り組み、ふり返る力。そして、異なる価値や考え方を受け入れ、協同的に関わる力の三つの力を育てることを目標としている。

	中 学 年 ( 3 , 4 年 )	高 学 年 ( 5 , 6 年 )
学 ぶ 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な人、社会および自然に対して興味や関心を持ち、自らの課題を発見し設定する力</li> <li>○適切な手段を選択し、情報を収集する力</li> <li>・見学・体験・インタビュー・図、写真</li> <li>・観察・実験・本・図鑑・インターネット</li> <li>○集めた情報を分析する力</li> <li>○これまで学習してきた方法を生かし、分かりやすくまとめ、表現する力</li> <li>【相手】・家族・友だち・全校・地域の人</li> <li>【方法】・作文・体験記・本・新聞・壁新聞</li> <li>【場】・シンポジウム・ワークショップなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象などに対して問題意識を持ち、自らの課題を発見し設定する力</li> <li>○適切な手段を選択し、情報を収集する力</li> <li>・見学・体験・インタビュー・図、写真、動画</li> <li>・観察・実験・資料、統計・インターネット</li> <li>○集めた情報を分析する力</li> <li>○様々な方法で、分かりやすくまとめ、表現する力</li> <li>【相手】・家族・友だち・全校・地域の人</li> <li>【方法】・レポート・論文・自分史・プレゼンテーション・リーフレット・番組</li> <li>【場】・討論会・パネルディスカッションなど</li> </ul>
高 め る 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解決の方法や手順を考え、見通しを持って計画する力</li> <li>○目標を設定し、課題の解決に向けて行動する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びをふり返り、自らの生活に生かす力</li> <li>○自らの生活の在り方や自身の成長について考える力</li> </ul>
関 わ る 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの「ひと・もの・こと」に進んで関わる力</li> <li>○相手の立場や気持ちを考え、協力して活動する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象の価値や異なる考えを受け入れながら協働して課題の解決にあたる力。</li> <li>○課題の解決に向けて社会活動に参加しようとする態度</li> </ul>

## 4. 実際の取組から

以下は本校、第6学年における平成27年度の総合的な学習の時間の領域別の配当数である。ここで設定されている時間を基本としながら学年の児童の実態に合わせて学習内容を決定している。

6年	①横断的・総合的な課題			②児童の興味関心に基づく課題	③地域や学校の特色に応じた課題。暮らし、伝統文化	計
	環境未来	国際理解	福祉・健康			
	20	15	13	15	7	70

地球環境についてESDの視点から考える。

途上国の抱える問題などから国際社会のつながりや解決への方策を考える。

キャリア教育の視点から将来について考える。

石狩の食文化を起点に郷土を愛する心を育てる。

以下は、各学年における実践例である。

<b>3年生</b>	<b>4年生</b>
3年生は総合的な学習の時間の入門期である。体を使う活動（自然体験・栽培活動等）を中心に調べたことを伝える学習を展開している。写真は体をメジャー代わりに身近な植物について調べている様子である。	北海道を題材にしているのは4年生。市内にあるLNG基地を見学するなど「エネルギー」の視点から身近な雪について考え、自然と暮らしについての学びを深めている。社会科との関連も効果的に図られている。
<b>5年生</b>	<b>6年生</b>
「命」を柱に環境問題について学習する5年生。宿泊学習では当別の道民の森へ出かけた。総合で取り組んでいる「環境」の学びと合わせることで体験の価値や質を高めるように学習計画を立てている。	6年生は「共に生きる」「世界に生きる」の2つをキーワードに他者理解、異文化理解の学習を進めている。「誰かの役に立てる人間になれるように」卒業を視野に学びを自身の生き方に返す指導が行われている。

#### 5. 特別活動における取組（ボランティア委員会）

本校では総合的な学習の時間の取組に加えて、ボランティア委員会がユネスコ活動に取り組んでいる。書きそんじハガキ回収や全校集会でのユネスコ活動の説明などで全校児童に「世界の問題」「ユネスコとは何か」「協力していることがどのように生かされているのか」を啓発している。

こうした取組の継続によって、ユネスコ活動が学校の活動の中に自然に溶け込み、低学年にも意義が伝わりつつある。ユネスコ集会は2月に今年度のまとめの集会（2回目のユネスコ集会）が行われる。